

卓越した業績(Performance Excellence)を目指して

- 教育機関としての経営品質の向上のために -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 開倫塾の基本理念、つまり全社で大切にしている価値観は「顧客本位」、「独自能力」、「社員重視」、「社会との調和」です。

(1) 「顧客本位」とは、「塾生」、「保護者」、「地域社会」の立場からすべての教育サービスを提供することです。

(2) 「独自能力」とは、「競合比較」や「社内、同業他社、異業種のベストプラクティスのベンチマーキング」を十分行った上で、開倫塾の「独自の方法」で「P D C A(計画 実行 検証 修正)」をまわし続けることです。

(3) 「社員重視」とは、社員一人ひとりの「能力強化」を果たした上で大幅な「権限委譲」を行うことで、「労働生産性の向上」、最終的には「雇用の維持」を目指します。

一人ひとりの社員が「自らの潜在能力」を自らの手で発見し、「自ら弱点を補強」しながら、「自らの潜在能力」を最大限伸ばすことを目指します。

(4) 「社会との調和」とは、「法令遵守」と「社会貢献活動の推進」をいいます。この基本は「企業市民(Corporate Citizenship)としての社会的責任」を果たすことにあります。

・ 「法令遵守」とは、「②法令違反の行為を行わないこと」です。

・ 「社会貢献活動の推進」には、「②開倫塾独自での社会貢献活動」、「③NPO・NGOの支援」、「④社員の社会貢献活動の支援」の3つがあります。

2. 開倫塾の教育目標・経営目標は、「⑤高い倫理」、「⑥高い学力」、「⑦高い国際理解」、「⑧自己学習能力の育成」の4つです。

(1) 開倫塾では、経営を「⑨営みを経て目的・目標を達成すること」と定義しています。

(2) 開倫塾の教育目標・経営目標とは何かを考えるに際し、OECDのPISA調査の基底となる学力観である3つの「⑩キー・コンピテンシーズ(Key Competencies)鍵となるような大切な基本的能力」と、その前提となる2つの能力が具体的内容として大いに参考になります。

(3) 「⑤高い倫理」とは、「⑪自律的に活動する能力」をいいます。

(4) 「⑥高い学力」とは、「⑫知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」をいいます。

(5) 「⑦高い国際理解」とは、「⑬多様な集団で行動する能力」をいいます。

(6) ⑳自己学習能力の育成とは、㉓Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)学び方を学ぶ能力、㉔読書による熟慮・熟考・省察する能力、㉕新聞を読んで考えることによる批判的思考能力(Critical Thinking クリティカル・シンキング)をいいます。

3. 開倫塾の経営方針は、㉖学ぶに値する塾づくり、㉗働くに値する職場づくり、㉘倒産しない会社づくりの3つです。

(1) ㉖学ぶに値する塾づくりは、㉙学校の定期テストで100点を取らせることと、㉚希望する学校に合格させるという㉛教育の成果を出すことで達せられます。

・開倫塾では、㉛教育の成果を決定する要因は㉜本人の自覚と㉝教師の力量であると考えます。㉜本人の自覚を促すのも、㉝教師の力量です。

・そこで、㉜本人の自覚を促すために㉞毎学期の始業式・終業式で1時間、㉟毎授業時間ごとに3分間の㊱武者語り(むじゃがたり)が、開倫塾ではすべての先生の義務事項となっています。

・㊱武者語りでは、㊲生きるとは何か、㊳働くとは何か、㊴何のために勉強するのか、㊵何のために進学するのか、㊶上級学校に行つて何をするのか、㊷各科目の勉強方法、㊸定期テストで100点を取るには、㊹偏差値の上げ方、㊺希望校への合格の方法、㊻志望校の選択の仕方、㊼スランプからの脱却の方法、㊽得意科目・得意分野のつくり方、伸ばし方、㊾不得意科目・不得意分野の克服方法、㊿授業の受け方、㊽㊾ノートを取り方、㊽㊿参考書・問題集・辞書の選び方、活用の方法、㊽㊼部活動と勉強との両立、㊽㊽本の読み方、㊽㊾書き抜き読書ノートをつくり方、㊽㊿新聞の読み方、㊽㊼新聞のスクラップの仕方、㊽㊾読んでほしい本、㊽㊿最近気になった新聞記事などを語っています。

・開倫塾の卒塾生の大半は高校卒業後、㊿大学・短期大学・専門学校などいわゆる高等教育機関(Higher Education Institute ハイヤー・エデュケーション・インスティテュート)に進学しています。そこで、現在は小学生、中学生、高校生ではあっても、高校卒業後に進学する㊿高等教育機関での教育・研究に耐えられる基礎学力の育成を、開倫塾では学習指導の目標としています。

以上